

令和8年度秋田県専門コース別研修 【意思決定支援】



社会福祉法人水交会 大仙市基幹相談支援センターかのん
室長／主任相談支援専門員 安藤拓哉

はじめる前に

本日の研修について



**「正解」を出さなくても
大丈夫**

結論を急ぐことよりも、
「どう悩むか」というプロセスを
大切にします。



**現場の「モヤモヤ」は
大切なサイン**

迷いは真剣に考えている証拠。
今日はそのモヤモヤを
言葉にしてみましょう。



**ベテランも初任者も
フラットに**

経験年数に関わらず、
「そんな見方もあるんだ」と
新しい発見を楽しみましょう。

研修のメニュー

1. 意思決定支援の必要性
2. 意思決定支援とは
3. 意思決定支援ガイドラインの構造

【お昼休憩(60分)】

4. 意思決定支援に向けた支援プロセス①
5. 意思決定支援に向けた支援プロセス②
6. 意思決定支援上の情報収集と記録化



意思決定支援において大事にしてほしいもの

「相談支援業務に関する手引き」

<https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/001335080.pdf>

「障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン」

<https://www.mhlw.go.jp/content/12602000/000307504.pdf>

「障害児支援におけるこどもの意思の尊重・最善の利益の優先考慮の手引き」

https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/7692b729-5944-45ee-bbd8-f0283126b7db/a14c5632/20241101_policies_shougaijishien_shisaku_guideline_tebiki_15.pdf

意思決定支援とは

☕ 「特別な技術」ではなく「日常」

特別な会議だけでなく、日々の何気ない会話や、
小さな選択の積み重ねこそが支援です。

🚗 本人の「人生のハンドル」を支える

運転を代わるのではなく、本人がハンドルを握り
続けられるよう横で支えます。

💡 チームで悩めば、可能性が広がる

一人で抱えると「無理」と思えることも、みんなで
考えればアイデアが生まれます。



1. 意思決定支援の必要性

事例で考える「本人が主体」の支援とは

気づきグループワーク

Supported Decision Making



「意思決定支援」をする主体は誰でしょう



?

Supported Decision Making



「支援された 意思決定」をする
主体は誰でしょう



?

“

私には、意思決定をする権利があります。



**（一人で意思決定することが難しい場合）
私には、支援された意思決定をする権利が
あります。**



意思決定をする
主体は本人



支援者は
サポーター

**「意思決定支援」は、
目的ですか？手段ですか？**

**「意思決定支援」の、
目的は何ですか？**

グループワーク① 「意思決定の共有」

グループワーク①の進め方

- 1 自己紹介(10分)
 - ・事業所名と役職、名前
 - ・各グループでアイスブレイクを入れてください
- 2 グループ内で共有(10分)
 - ① 意思決定とリスクの共有
 - ② 本人の意思に基づく支援の共有
 - ③ 他者の意思に基づく支援の振り返り

意思決定とリスクの共有

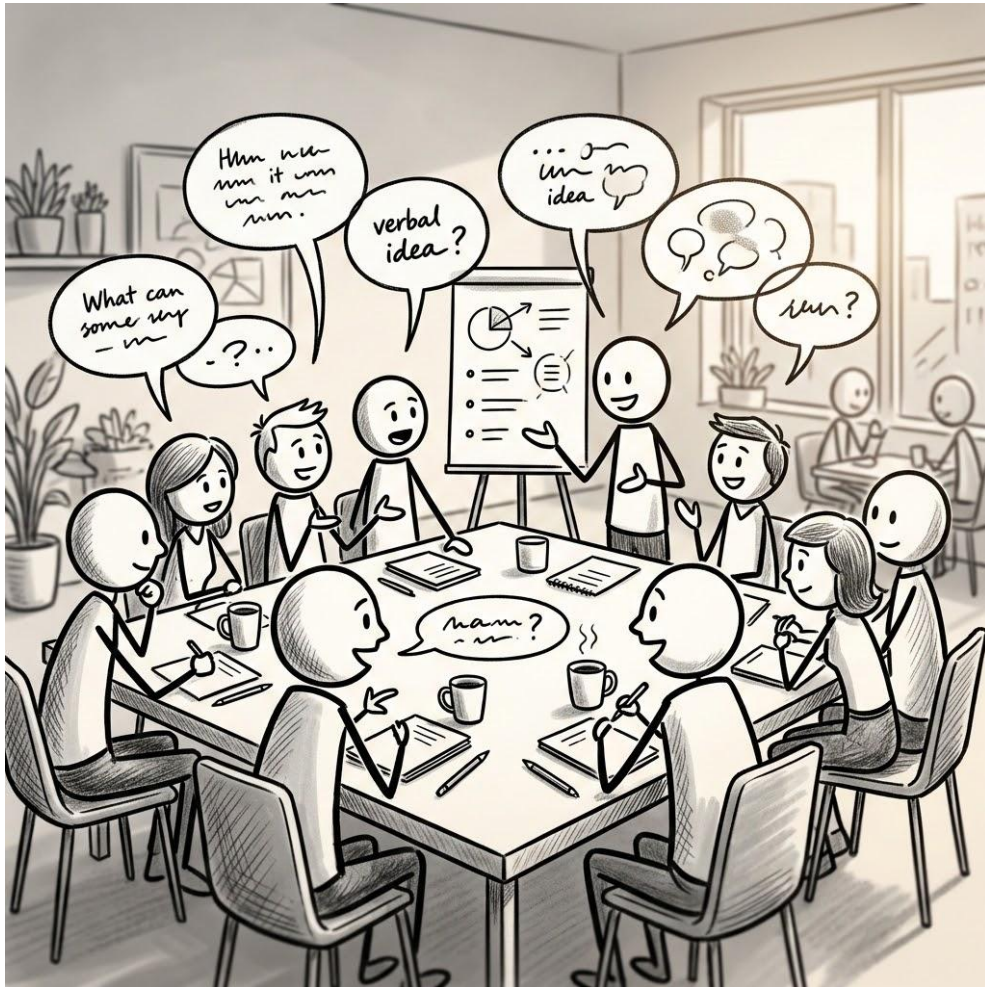


リスクを抜きに意思決定について考えることはできません。
意思決定は、本質的にリスクを含んでいます。

① あなたの人生の中で、例えば、親や周囲の人から反対されたけれど、それを押し切って意思を決定した経験があったら、それをグループで共有してください。

また、そのことを振り返って、今どのように感じていますか。

本人の意思に基づく支援の共有／他者の意思に基づく支援の振り返り



② あなたのこれまでの利用者への支援の中で、本人の意思決定に基づいて支援した事例があったら、どんなことでも良いので思い出し、グループで共有してください。

③ あなたのこれまでの利用者への支援の中で、本人の意思ではなく、本人以外の他者の意思に基づいて支援内容を決定した事例があったら思い出してください。

- ・それは、誰の意思でしたか。
- ・なぜ、本人ではなく、その人の意思に基づいて決定したのですか。
- ・その時に、思ったり感じたりしたことがありましたか。

これらのことを、グループで共有してください。

グループワーク②

事例から見る「意思決定支援」

－意思決定に対する阻害要素とは？－

グループワーク②の進め方

- 1 グループで話し合う事例を決める(あまり時間をかけないように！)
- 2 発表者を決める
- 3 グループ内で意見共有
※まずは「阻害要素」を考える。
時間が余ったら支援方法を検討すること。
- 4 全体共有(5分)

合計:20分

「意思決定を支援するかかわり」について考えてみましょう



事例①

「権利」に関する事例



事例②

「支援付き意思決定と代行決定」の
経験に関する事例



事例③

「意思決定におけるリスク」の
経験に関する事例

この中から1つ選択して、15分程度グループワークを行います。

その人の意思決定を阻む要素は何か、考えてみてください。

事例① 長期入院しているAさん(60歳)

長期入院している人の退院を進めるという病院の動きの中で、Aさん(60歳)が候補となりました。長期入院となっている患者さんの中ではまだ若く、激しい症状が消退しているというのがその理由です。

Aさんは、突然、これまでかかわりのなかったソーシャルワーカーから「退院しませんか」と言われました。

20年以上も入院生活を送ってきて、今の生活に大きな不満はありません。それよりも変化している社会の中でひとりで生活することへの不安の方が大きいので、どうしていいのか、自分でもわかりません。

事例② 学童保育に通いたいBちゃん

Bちゃんは来春、小学生になります。そこで、保育園のお友達が多く通う小学校に併設する学童保育の利用を申請しましたが、一度もBちゃんやお母さんに会うこともないまま、却下の通知がきてしまいました。

問い合わせたところ、場所が狭くて、利用する児童が多いので「コミュニケーションがとれず、車椅子が必要なBちゃんの安全が確保できない」というのが主な理由でした。

「Bちゃんは、”お母さん“と呼ぶことはあるのですか」と聞かれたので、言葉で母と呼ぶことが無くても、Bちゃんは周りの事を良く理解していることや自らの意思や考えていることはあることを伝えましたが、担当の職員の理解を得ることができませんでした。

事例③ ディズニーランドに行きたいCさん

Cさんはグループホームに入所しながら、就労継続支援B型事業所に通っています。定期的に行っているCさんの関係者会議でのことです。

相談支援専門員から「これからの希望や、やりたいことはありますか？」と聞かれ、Cさんは「ディズニーランドに行きたい」と答えました。

それに対してグループホームのサービス管理責任者からは、「この前もCD買いすぎてお金がないじゃない。ディズニーランドに行くには新幹線と電車を使い継いで行くんだから、一人じゃいけないのよ」という発言がなされ、話はそこで、終わってしまいました。

意思決定を支援するかかわり 支援例

事例① 長期入院しているAさん(60歳)「権利」に関する事例

－意思決定を支援するかかわり－

突然の退院話に困惑しているAさんの様子を見て、ソーシャルワーカーはどういうことが不安なのか、じっくり話を聞いてみました。

発病してから入退院を繰り返し、家族にずいぶん負担をかけたこと、親孝行もできないまま両親が亡くなり、面会や外出もないまま20数年が過ぎてしまったことなど…。

今の社会がどう変化しているのかがわからないという不安が大きいことがわかりました。

事例①(続き) ピアサポーターとの交流

そこで、Aさんと同じように長期入院していた経験をもつピアサポーターのYさんに病棟に来てもらい、退院する時にどういうふうに退院したのか、退院してからの苦労や楽しみなどを話してもらいました。

Yさんは囲碁や俳句が好きで、退院してから、地域の高齢者の方が集まる憩いの家に毎日のように通って、趣味を楽しんでいることを話してくれました。もちろん、自分で身の回りのことをすべてやるのは大変だけど、ヘルパーさんに手伝ってもらっているとも言っていました。

Aさんも囲碁や将棋が好きで、病棟では右に出る人がいないような腕前です。Yさんの話で少し、退院してからの生活がイメージできるようになってきたようです。

事例② 学童保育に通いたいBちゃん「支援付き意思決定と代行決定」

－意思決定を支援するかかわり－

Bちゃんは学童保育に行って、本当に楽しいのか。どんな風を感じるのか試してみることを提案し、体験利用の機会を作りました。

子どもたちに囲まれ、笑顔で過ごしていBちゃんの姿が見られ、顔見知りの子どもたちが「Bちゃんが笑っている時は、いろいろと話をしている時だよ」と職員たちに説明してくれました。

また、母親が発作対応の方法をわかりやすく書いた資料をつくり、職員たちに伝えました。

事例②(続き) 会議での変化

関係者が集まる会議では、ヘルパーさんから、疲れはあるものの、学童利用後に帰宅したときに、「今日は友達と何をして遊んできたの」と聞くと、声を大きく出して、笑顔で説明しようとしたり、得意げな表情を見せてくれたと報告がありました。

行政も、Bちゃんと保護者が学童利用を希望していること、また、それを拒む理由はない前提に立ち戻り、Bちゃんがどうすれば安全に学童保育利用のための具体的な環境整備を進めていくかの検討をしてくれることになったのです。

事例③ ディズニーランドに行きたいCさん「意思決定におけるリスク」

－意思決定を支援するかかわり－

いつもサービス管理責任者からは、お金の使いすぎだと注意され、あれもダメ、これもダメと言われてしまいます。Cさんは今回も同じだと思っていたが、相談支援専門員が「Cさんはどうしてディズニーランドに行きたいの？」と聞いてくれました。

「雑誌で大好きなアイドルがディズニーランドに行っている記事を見て、ずっと前から行きたいと思ってたんです」そう答えると今度はサビ管に向かって「Cさんは全然お金がないんですか？」と尋ねました。「全然というわけじゃないけど…ディズニーランドに行ったら、かなりお金がなくなっちゃいますよ」という返答がもどってきました。

事例③(続き) 具体的な対話へ

「じゃあ、行けるくらいのお金はあるんですね。Cさんは東京に行ったことはあるんですか？」相談支援専門員からそう聞かれたので、「東京まではEさんと一緒に行ったことがあります。Eさんは電車のことかわかるから…」とCさんが答えました。

「そうなんですね…すぐというわけにはいかないかもしれませんが、ディズニーランドに行くために、日ごろのお金の使い方少し考えたり…これからいろいろと話していきませんか？」

そう相談支援専門員から言われ、夢がかなうかもしれないとCさんはうれしくなりました。

意思決定を阻む要素とは…

 話せなければ言葉がないと思ってしまう

 表明がなければ、意思がないと思ってしまう

 障害があることで、達成できる能力がないと判断してしまう

→ 本人の可能性を信じることができない

⇒その理由はどこにあるのでしょうか

- サービス提供機関の事情・利益優先
- 情報・経験の不足
- 安全を保障できない責任を持ちかねる
(リスク回避)
- 逆に先回りして代行してしまう
(パターンリズム)